

令和5年度後期総合経営学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
S232001 経営の基礎Ⅱ	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。高校生から(本学)経営学部学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生活を送れるように、経営学部学生としてのスチューデント・スキルを身につけるとともに、経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	経営に関するグループワークを中心に演習を行ったが、事前の課題を十分にこなしてこない学生もあり、話し合いも盛り上がりには欠けた面もあり、学生に提示する課題の工夫、事前の個別にユニバなどを通じてきめ細かな指導をしていきたい。	添削指導、フィードバックに時間をかけると同時に、課題提示および指導においてユニバ等を効果的に利用して、きめ細かな指導を図っていきたい。	授業評価4.6 回答率60% 科目GPA 2.5
S232002 経営の基礎Ⅱ	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	文章表現の仕方についてテキストをもとに実践形式で学ぶ授業を行った。原稿用紙の書き方、紹介文、賛成反対の意見文、ピフオアフターの文章、対立項と時間軸のある文章など、原稿用紙を用いて毎時間400~700文字で書く練習を行った。	大学での課題提出、また社会に出てからの報告ほかの文書作成に関して必要となるスキルの基本について学ぶため、テキストをもとに実践練習を行った。今まで文章の書き方が十分練習されていない者が多く、格差が目立った。一部の学生にとっては文字の読み書き訓練が必須であることがわかった。	授業評価4.7 回答率100% 科目GPA2.83
S232003 経営の基礎Ⅱ	達成目標 他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	実際の授業コンセプトを、達成目標に即したものに担当者の話し合いで改善した。後期経営の基礎Ⅱでは、ゼミ単位の少人数での授業を実施した。少人数のゼミナール形式での授業が実施できたため、個別の指導はある程度できたが、欠席5名2名、欠席対応に苦慮した。欠席者を中心にB評価が少なくなかった。	経営の基礎という授業科目で、授業内容はゼミ任せという部分があり、他のゼミの内容がほとんどわからず、毎年、手探りの中で授業を進めている。同じ授業でありながら、授業内容、課題が担当者によって異なる(わからない)ことは、大きな改善点であると考えている	授業評価4.37 回答率87.6% 科目GPA2.63
S232005 経営の基礎Ⅱ	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	2023年度の授業も、ある人物の伝記を読み、その人物が組織の中でどのように生きてきたかについて受講生と話し合うという形式で進めた。授業で扱った文章に含まれる言葉の意味を、受講生自身にその場でスマートフォンを利用して調べさせることにより、文章への理解が深まっていると思う。履修登録した13名中、3名が欠席過多で不合格になった。	2023年度の授業では、小泉信三、松本清、藤原銀次郎、出光佐三の4人を扱った。次年度は、この4人以外の人物を取り上げたいと思う。	授業評価4.75 回答率57.1% 科目GPA2.38
S232006 経営の基礎Ⅰ	①他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 ②経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 ③講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。 ④高校生から大学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生活を送れるように、大学生としてのスチューデント・スキルを身につける。	履修者は9人で、全員日本人学生であった。毎週、対面授業を行った。毎回の演習課題(授業内課題)に学生は取り組み、きちんと提出してくれた。途中で、欠席する学生が出てきたので、電話連絡したところ、出席するようになった。また、2年次のゼミ選択や大学生活上の不安や悩みの相談役としてコミュニケーションを取ることができた。	履修した日本人学生とのコミュニケーションは、毎週、対面授業でよく取っていたので、特に改善すべき点はないと思われる。履修者19人のうちで5人だけがアンケートに回答してくれた。比較的授業評価は高く、GPAが3.11にと高かったことは良かった。	授業評価4.686 回答率77.8% 科目GPA3.11
S232007 経営の基礎Ⅱ	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	テーマ設定、資料収集、発表を行った。個人作業の間は、机間指導ができ、学生が質問しやすい雰囲気をつくることができた。また、学生同士のコミュニケーションの機会も得ることができた。経営学の基本的な考え方、専門用語等について、自分で調べて考察し、発表する機会を得られたように思われる。	現在の環境として、他者とコミュニケーションをとる機会が減っているため、授業を通して学生同士で相談する機会を増やしていきたい。また、設定したテーマにそって、資料を収集し、考察し、その結果を発表するという機会をつくり、今後の学習の基礎が身につけられるよう心掛けた。	授業評価4.500 回答率83.3% 科目GPA2.75
S232008 経営の基礎Ⅱ	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。以上3点を到達目標としている。高校生から大学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生活を送れるように、大学生としてのスチューデント・スキルを身につけることを教育効果としている。	学生は中国人留学生一人と日本人六人(男七人)。休憩時間になってもお互いに会話を展開するような学生はほとんどいなかった。しかも欠席がちの学生もいた。前期の「経営の基礎Ⅰ」よりも踏み込んだ内容だったが、少しでも経営学に興味を持ってもらえるように情熱を持って指導した。	学生たちの成績は決して芳しくはなかった。それでも授業評価は相当高かったため、少し安心している。これに慢心することなく、学生たちが意欲的に授業に参加するように努力していきたい。	授業評価4.733 回答率42.9% 科目GPA1.71
S232010 経営と流行	過去から今日に至るまでの経営手法を理解することができる。時代に適応したビジネスモデルを理解することができる。	明治時代から今日に至るまでの企業経営において、各時代における中心的な経済・産業政策や事業運営の手法を解説することができた。ワークライフバランスやICT・DX、企業と社会の共通価値創造、SDGs、ESG経営など、現在の経営課題も織り込むことで、将来を考え、未来へとつながる経営の視点を持つことができた。	取り上げる事案について、経営に対する影響力や価値が可視化できるように事例の充実を図る。またキーワードの理解が促進できるように、受講者の反応を見ながら丁寧な解説を心掛ける。	授業評価4.61 回答率61.4% 科目GPA2.58

S232011 簿記 I	□ 「現代生活と会計」で学習した内容を基礎とし、さまざまな取引(株式会社の会計処理を含む)を理解することができる。試算表および精算表を作成し、勘定式の貸借対照表および損益計算書を作成することができる。	総合問題を最後に行い、1冊の簿記全体の流れを理解してもらうために授業時間内に評価テストなどを行った。全体の意味が理解できたと考えている。	科目GPAは1.4と低かったが、EF以外の以外は1.8で通常通りだと考える。授業時間も充分とれるようになったため、学生の理解度確認しながら、わかりやすい説明をしていきたいと思う。応用問題を解かせていたが、全体像を理解していない学生が多かったので、どの部分の問題なのかを説明して型実施していく。	授業評価4.71 回答率47.3% 科目GPA1.43
S232012 簿記 I	「現代生活と会計」で学習した内容を基礎とし、さまざまな取引(株式会社の会計処理を含む)を理解することができる。試算表および精算表を作成し、勘定式の貸借対照表および損益計算書を作成することができる。	簿記の経験者も多く、そうした受講生にははたらく授業になるが、他方で留学生や簿記の初学者も多いので、言葉をできる限りはっきりとし、丁寧な説明を心掛けた。簿記は理解するだけでなく、演習問題を繰り返し実施しないと身につかない科目であるが、多人数授業の中で、十分な演習時間を取ることに難しさを感じた。	簿記は、勘定科目を言語として用いている。勘定科目を理解すれば、ほぼ全てのこと理解できる。勘定科目は、漢字を見れば、おおよその意味はわかるものであるが、近年は、非漢字圏の留学生が増えているため、理解が難しくなっている。用語の意味の説明等に時間がかかり、やはり演習問題を解く時間の確保が難しいが、できる限り、時間の確保に努めていきたい。	授業評価4.51 回答率68.2% 科目GPA1.46
S232013 企業とCSR	企業が発展するにつれて、自らの社会的責任を果たす必要性が出てくることを理解することができる。企業の社会的責任(CSR)の内容について理解することができる。企業が発展するにつれて、社会的責任を果たす必要性がどの様に生じていくかを理解する。企業の社会的責任の内容はどの様なものであるかを理解する。企業の社会的責任の源流について理解する。	昨年度は課題の数を絞らずに履修者によって学習度に差が大きくなってしまったことから、今年度は毎回提出方式に戻した反面、授業へのコメント欄を設けて少しでも記述しやすい方式に改めた。学習面でのパラツキはある程度解消されたのではと考えられる。	授業評価4.705 (4.9、4.6、4.6、4.7、4.7) 回答率53.2% 科目GPA2.11 全般的に数値が上がっており、課題の方式変更等が功を奏したとも考えられる。次年度もこの方式で様子を見ていきたい。	授業評価4.705 回答率53.2% 科目GPA2.11
S232014 日本の経営文化	日本企業の経営にはどのような文化的背景があるのかを理解できる。日本の経営文化がビジネスにもたらす影響を理解できる。	日本企業の事例をもとにして授業を進めたことで、経営学の基礎用語や日本の企業経営について関心をもち、理解が深まったと思われる。	日本の企業経営の歴史を説明するため、とりあげた日本企業の事例が限定的だった。(留学生の)受講生世代でも知っているような、今時の事例を増やし、学生が関心をもてるよう工夫していきたい。	授業評価4.600 回答率50.0% 科目GPA3.25
S232015 法学概論	法の解釈など、法学習の基本的取り組み方やリーガルマインドについて理解することができる。遭遇するであろう様々な法的局面に適切に対応することができる。ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。	法学概論は、1年生の選択科目であり、今後法律科目を学習していく上で重要な科目に位置づけられる。授業は、おおよそ計画通り比較的円滑に進めることができた。資料を活用して、来年度開講される企業法に結び付く内容を扱った。こうして、企業にかかわる法律を学習していくために、法学の基本を学ぶことを目的とした。法律用語が難しく、理解しにくいところは、何度も説明するように心掛けた。法学の分野を概観して、様々な法律の主な論点を把握することができ、一定の法的思考力が身に付いたと思われる。	民法や商法、会社法を中心として、学生が法律問題をより身近に感じられるよう、最新の新聞記事や判例を講義により取り入れていきたい。	授業評価4.683 回答率80.3% 科目GPA2.58
S232016 スポーツ経営管理論	達成目標 スポーツ経営・管理の基礎理論を身につけることができる。領域に応じたスポーツ経営・管理の実践スキルを身につけることができる。 スポーツにおける「戦略・マーケティング・組織・管理、ビジネスの仕組み」の基礎段階として、本講義では経営管理の基礎的な内容から、スポーツの特殊性を考慮した内容まで論理的に理解する。	経営分野の中でも、スポーツに関する内容について取り扱う科目となる。主に、経営学の基礎的な内容をスポーツに照らし合わせ内容を構成した。1年次開講科目であることから、経営に関する基礎知識をまず取り上げ、それらの解説を多く取り入れた。他の科目と重複する内容を踏まえたものとなるが、履修者にとっては繰り返しとなり、復習となっていたようである。また、それらの理解度により、評価に差が出たと感じている。一般的な経営とスポーツの経営には共通する点も多数あるが、それらを理解した上で、スポーツの経営を捉えられるよう、授業内容を構成した。これらの点でスポーツに関する経営への理解度は、ある程度深まったと感じている。	授業評価回答率が68.1%であり、おおよそ全体の評価を反映したものと考えられる。回答した者については、概ねよい評価であったと考えている。今後も、一般的な経営に関する内容を織り交ぜ、スポーツに関する経営について、昨今の事情も踏まえつつ授業内容を構成していきたいと考えている。また、何らかの企画や運営に関する実践的な内容も取り入れていきたい。	授業評価4.527 回答率68.1% 科目GPA2.36
S232017 体力とトレーニング	体力の概念・測定方法・評価方法を習得できる。 健康と体力の関係について理解できる。 ライフステージに応じた健康問題と運動の視点についての知識を習得できる。	当該科目は今年度から担当科目となったものだが、受講人数が84名と多く、教室形状からしてディスカッションするには厳しいものがあり、講義主体の授業とした。D.E評価が10名と厳しいものがあったが、1年生科目ということではできるだけわかりやすい内容を心がけたが、より身近なトピックを使った授業を心掛ける必要があると感じている。	比較的大人数でしかもオープン科目であることから、学力的に格差が見られ、対応が難しい面があった。専門的な語彙を用いて授業を行うことが必要になる場面でも、その説明に時間をかけ理解可能な状況を作る必要があると感じた。時間的に足りなくなることも考えられるが、次年度は内容が薄くならない範囲でスライド内容の工夫により分かりやすい授業を心掛けていきたい。	授業評価4.61 回答率84.6% 科目GPA2.38
S232018 専門ゼミナール II	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	金融経済の基礎知識について、文献を読んで、各担当ごとに発表し、討論を行った。このことにより、問題理解と解決提案をプレゼンテーションする能力と、意見や批判を受け止め、考える能力がある程度養われたと考える。	学生がより主体的にリサーチ、プレゼンできるよう指導していきたい。	授業評価4.66 回収率58.8% 科目GPA2.13

S232019 専門ゼミナールⅡ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。 総合経営学科の様々な分野の中から、自らの能力や適正にあった学習志向を見定めるよう支援します。	ITパスポート試験の学習を行い、それぞれの単元を反転授業として行った。発表がいやいやで発表しなかった学生もいたが、大学生としては与えられた単元は発表しなければならず減点の対象となった。その分限定され単位が与えられなかった学生もいた。学生にとってはつまらないゼミナールになったと思う。	成績の二極分化が進んでいる。欠席する学生は固定化している。5回まで欠席してもよいという考えになっている。授業の改善よりマインドコントロールが必要である。	授業評価4.55 回答率44.4% 科目GPA2.33
S232020 専門ゼミナールⅡ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	ケース分析の結果を、相互に意見交換をしながらプレゼンテーションすることで、プレゼン能力並びに意見や批判を受け止め、考え続けていく探求力を身につけることができた。具体的な企業の事例を扱うことで、現実の企業活動に関心が持てるよう意識づけを心掛けた。	ケーススタディの鮮度を意識し、データやトピックスを都度更新していく。身近な企業の事例を発掘し、マーケティング、さらに経営学に対する知識と関心が持てるように工夫していきたい。	授業評価4.60 回答率64.7% 科目GPA3.00
S232021 専門ゼミナールⅡ (新カリ)	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	簿記検定3級と2級の指導を実施した。個々の学生対応になった為、自主性を尊重した。ベトナム人留学生が日商簿記検定2級合格したことは今回のやり方が正しかったと考えている。	授業評価に関しては、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考えている。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の個別指導の時間は必要であり、工夫したい。	授業評価4.26 回答率23.1% 科目GPA4
S232022 専門ゼミナールⅡ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。 総合経営学科の専門教育を履修していく自立的学習を支援するために、経営における総合的判断力を育てる。この関心や興味が履修モデルによる学習計画に反映され、総合経営学科の様々な分野の中から、自らの能力や適正にあった学習志向を見定めるよう支援する。	企業法の分野の中で、とりわけ労働法の専門知識について、判例集を活用して争点を議論することで、その論点を掘り下げることができた。一連の学習を通じて、レジュメ作成、プレゼンテーション資料作成のスキルをあげることができた。ときには学術論文にみられる判決に対する批判的な意見にも触れることで、問題の本質に触れることができた。また、就職のためのビジネス実務マナーについても、検定試験問題集を通じて学ぶことができた。	判例研究や論文整理において、学生がより主体的に取り組み、プレゼンテーションできるように指導方法をより工夫したい。	授業評価4.788 回答率94.1% 科目GPA3.88
S232023 専門ゼミナールⅡ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。 総合経営学科の専門教育を履修していく自立的学習を支援するために、経営における総合的判断力を育てる。	露骨に意欲の高さが、ゼミ生によって差が出てしまったのが正直なところである。取り組む意欲の低いゼミ生のモチベーションを如何に引き出していかかわられる1年になってしまった。	授業評価4.667 (4.8、4.6、4.5、4.8、4.8) 回答率80.0% 科目GPA1.75 学習能力向上という意味では心許ないが、数値的には昨年度より向上する結果となった。余り真面目に取り組まなかったゼミ生にとっても、居心地は良かったということなのか。ただ如何に意欲を引き出すかということ課題として課せられたと感じている。	授業評価4.667 回答率80.0% 科目GPA1.75
S232025 専門ゼミナールⅡ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	ゼミナール形式で、前半は教員が用意した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルについて学習した。後半は、学生が各自で検索した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルに加え、PCを用いたレポート作成やプレゼンテーションを行った。 レポート作成や卒論作成に繋がる基本的なスキルの学習であるが、繰り返し行うことで、個人差はあるが少しずつ向上していたと感じている。また、PCスキルについても同様で、普段からPCを利用する機会の有無により、理解度や習熟度に差はあるが、少しずつ慣れていくことができたと感じている。 今後は、基本的な内容だけでなく、応用的な内容も取り入れ、PCスキルや読解力をより向上させることを実践していきたいと考えている。	全ての回において対面形式でのゼミナールを実施した。解説と課題作成、PCスキルについての理解を深めることができるように工夫した。少数ではあるが、今回、課題の難易度については若干高いものを選択した。PCの所有やスキルに差があり、実際にPCを操作する機会は少ない学生にとっては難しい課題であった可能性もある。今後は、難易度の高い課題を取り入れる際には、履修者の思考力や読解力、PCスキルの状況を見極め、解説等の量を増やし、理解度の向上につなげていきたいと考えている。	授業評価4.540 回答率62.5% 科目GPA2.56
S232026 専門ゼミナールⅡ	ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	対面60分・オンデマンド30分で授業を実施した。コロナ禍により学生同士の交流が減っている状況で、学生のグループワークの時間をより多く取るようにした。ゼミ生一人一人が学習した経営学的観点から、関心のあるテーマを選ばせ、指導中はディスカッションを取り入れ、互いが興味をひく発問にペアワークで答えさせる機会を設け、議論した内容を発表させた。最終的には個人発表をするテーマに繋ぎ、ゼミ生が自主的に学習できるように工夫した。	昨年の評価、回答率授業評価4.686 (4.7、4.7、4.7、4.7、4.6) 回答率77.8%と比較すると、アンケートの回答率は同じで、下がった傾向。 概ね良好な評価を得たので、これまでと同様な方式で続けていきたい。授業アンケートの結果などを参考にするとともに、受講生たちに合わせてSNSできめ細かく個々に対応していきたい。授業アンケートの結果などを参考にするとともに、受講生たちに合わせてSNSできめ細かく個々に対応していきたい。授業アンケートの結果などを参考にするとともに、受講生たちに合わせてSNSできめ細かく個々に対応していきたい。授業アンケートの結果などを参考にするとともに、受講生たちに合わせてSNSできめ細かく個々に対応していきたい。	授業評価4.95 回答率66.7% 科目GPA3.33
S232028 経営戦略論	経営戦略に関する基礎的な知識を習得し、優れた戦略とそうでない戦略の違いを見分ける「戦略審美眼」を身につける。	経営戦略論は、2年後期の必修科目であり、経営学を学ぶうえで、中核に位置づけられる。これまで学生が学んできたマネジメントに関する知識を体系化して理解させることができたと考えている。対面授業においても、コロナ回避を目的としてオンライン授業を選択した者も概ね予定通りの教育効果が得られたと考える。	今後もより学生が経営戦略を身近な問題として感じられるよう、最新の事例を取り入れて紹介していきたい。	授業評価4.55 回収率57.0% 科目GPA1.92

S232029 経営組織論	人と組織のマネジメントの手法について理解することができる。 組織と戦略とのかかわりについて理解することができる。 組織と人との関係を通して企業の経営活動について理解することができる。 組織と人との関係を考察することを通して組織マネジメントに必要な知識を習得することを目的とする。	今年度から1クラスに統合したことで、コマ数の負担は軽減された反面、履修者自体は141名と相当な人数に上ったので、履修者管理においては相当苦勞させられたのが実感ではある。授業時間を少しでも確保するために、採点済課題返却方法を履修者に直に取らせる方式に変更した。	授業評価4.484 (4.4、4.4、4.4、4.5、4.6) 回答率51.7% 科目GPA1.96 回答率が昨年度よりは向上した反面、数値的にはやや下がった形。履修者数が多くなったことで満足度が低下したとも考えられる。課題の出題形式等変更するか検討していきたい。	授業評価4.484 回答率51.7% 科目GPA1.96
S232032 コンピュータ会計 商 教選	証憑などの領収証や納品書などで仕訳をして、会計ソフトに表示される財務諸表のデータを読み取り、問題点を解決できる。企業の現状分析や、短期利益計画、資金繰り表の作成まで理解し、会計ソフトを活用できる。	パソコン操作の授業は、個々の理解度が異なるので1年次にさぼった学生は苦勞したようだ。これらの学生に時間を費やしてしまっただけで、次年度は事前に宿題を提示していく。	科目GPA2.46あったが、F以外は2.84であった。授業評価に関しては、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものとする。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の個別指導の時間は必要であり、工夫したい。	授業評価4.47 回答率48.5% 科目GPA2.46
S232033 ショップ経営論	商店の設立や運営に関する知識を理解することができる。 商店の多様な形態を理解することができる。 簡単なモデルの商店の設立や運営を行うことができる。	事例紹介を充実させることで理解促進を図った。開店準備や集客方法、雇用、経理など、実際に店舗を開店、運営する上での知識を学ぶことで、店舗経営に関する課題発見力や実践的な力を身につけることができたとする。	身近な店舗の事例を取り上げ、学生が関心を持てるように工夫したい。	授業評価4.62 回答率53.8% 科目GPA2.42
S232034 財務会計論	財務会計の基本的な枠組みおよび会計特有の用語や概念を把握・理解することができる。 近年の会計制度の変化の主要な流れとその背景を理解することができる。	テキストを使用しない授業であるため、対面授業欠席者用の授業資料を作成する必要があり、スライドを対面授業を行い、そのスライドを対面授業欠席者用の授業資料とした。 対面授業出席者は、映し出されたスライドの写真を撮ることで満足してしまい、授業内容の理解が進まなかったように思われる。	スライドを用いた授業では、なかなか受講生の集中力を維持できないので、今後は、できるだけ板書を用いて、問いかけを多くいれながら授業を進めていきたい。	授業評価4.426 回答率65.7% 科目GPA2.17
S232035 専門ゼミナールⅣ	経営的思考力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできることを目標としている。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培うことを教育効果としている。	学生は中国、ベトナム、ネパール、インドネシア出身の留学生のみ。専門ゼミナールⅢに続いてのクラス構成のため、和やかな雰囲気の中で授業を行うことができた。ただ、専門ゼミナールⅣを担当したのは初めての体験。試行錯誤を繰り返しながらの授業ではあった。	回答率は50%だが、授業評価で満点を得ることができた。しかし、後で考えると至らぬ点が数々あることを自覚している。慢心することなく、努力を続けていきたいと思う。	授業評価5.0 回答率50% 科目GPA3.0
S232036 労働法	労働法の知識を活用して、遭遇するであろうさまざまな職場のトラブルに際して、リーガルマインドをもって、冷静に法的対処をすることができる。 ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。	労働法は、2年生の選択科目であり、企業経営あるいはこれから就職する者にとって重要な科目である。授業は、おおよそ計画通り比較的円滑に進めることができた。資料を活用して、概ね予定通りの教育効果が得られた。労働問題の本質を考察することを目的とし、学説や判例の検討などを多く取り入れたが、専門的知識の理解があまりできていなかった。主に労働基準法を概観することで問題点や争点を認識でき、法的な解釈は一定レベル得たようである。	学生が労働問題をより身近に感じられるよう、最新の新聞記事や判例をより講義に取り入れていきたい。	授業評価4.493 回答率53.2% 科目GPA2.16
S232037 個人スポーツ演習	個人スポーツに必要な基本的技能を身につけることができる。 個人スポーツにおけるルールとマナーを身につけることができる。 個人スポーツにおける戦略や戦術を工夫し、各自の技術を駆使して試合のレベル向上のための方法を考える事ができる。	スポーツ種目の中の主に個人種目について学ぶ演習形式の科目である。個人スポーツとして、バドミントンと卓球を展開した。個人やグループでの練習活動における基本的な技術を身に付け、戦略や戦術を工夫してその成果をゲームの中で確認しながら個人技術、戦略・戦術の理解、向上を目指した。実際に活動する回数は多くはないが、基本的な技術を身につけることを中心に、それらを活かした戦術や戦略を駆使することで、より高いレベルのゲームを追求することに繋がったと考えている。実際に受講者は技術的にも向上した印象があり、より個人スポーツの特性にふれた楽しさを味わい、理解することができたのではないかと考えている。	授業評価回答率が55.8%であり、おおよそ全体の評価を反映したものと考えられる。回答した者については、概ねよい評価であった。 比較的容易に実施することができる個人スポーツのうち、バドミントンと卓球を展開した。受講者の中には経験の浅い者が多く、基本的な技術を身につけることでゲームの中の楽しさを実感できていたと思われる。今後は、基本的な技術や戦術をより理解しやすい内容にし、加えて応用技術や戦術についても多く取り入れた内容を構成していきたいと考えている。	授業評価4.759 回答率55.8% 科目GPA1.88
S232038 球技スポーツ演習 【開放】	球技スポーツに必要な基本的技能を身につけることができる。 球技スポーツにおけるルールとマナーを身につけることができる。 球技スポーツにおける戦略や戦術を工夫し、試合のレベル向上のための方法を考えることができる。	専門科目としてのスポーツ演習であるが、教養のスポーツ科目を履修するイメージで受講する学生が多く、取り組みの甘さが目立つ。 実際にシラバスの達成目標も、教養のスポーツの達成目標と大差なく、位置づけが難しい授業である。 今年度、履修者が22名と多く、取り組みの悪い学生による雰囲気引きづられた感がある。Dが4名、Eが2名であったが、欠席がなければ、GPAも1.0以上あがったと考える。	演習科目であるため、より専門的な内容とすること、グループワーク等で学生自身が考えることなどを考える必要がある。 なによりも、欠席が少なくなるよう指導したい。	授業評価4.34 回答率63.6% 科目GPA1.36
S232039 専門ゼミナールⅣ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業で実際にマネジメントできる。	ICTの進展に伴う最新の金融ビジネスに関する文献を担当別にプレゼンするかたちで演習を行った。金融に関心を持つ学生が多く、やや難解な内容であったにもかかわらず、事前にリサーチして、意欲的な報告と討論が行われた。演習を通じて、経営的な思考能力と判断能力が養われたと考える。	今後は、学生が興味を持つテーマを自ら設定して、報告できるように指導していきたい。	授業評価5.00 回答率68.3% 科目GPA2.31

S232040 専門ゼミナールⅣ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	ITパスポート試験の学習を行い、それぞれの単元を反転授業として行った。2年制まではコンピュータの学習をこなさなかったため、このクラスからは合格者がいなかった。また、学生にとっては発表だけのつまらないゼミナールになったと思う。	出欠は安定しているが、学習意欲に今一つ欠けている。興味を抱かせるゼミ内容は何か。フィールドワークを実施させればまた違った側面が見られるかもしれない。	授業評価4.50 回答率80.0% 科目GPA3.20
S232041 専門ゼミナールⅣ	事例研究（ケーススタディ）と理論を紐づけし、興味のある研究テーマを段階的に絞り、卒業論文のテーマ選定につながるようにしたい。 最新の事象や変化をトピックスとして紹介し、研究テーマの検討にあたって質量ともに充実した情報提供を心掛けたい。	専門ゼミナールⅢで取り組んだ内容、考え方を土台とし、取り上げたマーケティング理論やビジネスモデルから、それに適合するケースを自分で探すことで考察力の強化を図った。またグループワークによって他のメンバーとの協働やディスカッションにより成果を出すことで新たな気づきや協調性が身につくように運営した。 それに加え、関心のあるテーマを選択の上、調査や分析を行った。その成果をパワーポイントで発表することでプレゼン能力が向上し、さらに他者の意見や助言を基にステップアップすることができた。と考える。	事例研究（ケーススタディ）と理論を紐づけし、興味のある研究テーマを段階的に絞り、卒業論文のテーマ選定につながるようにしたい。 最新の事象や変化をトピックスとして紹介し、研究テーマの検討にあたって質量ともに充実した情報提供を心掛けたい。	授業評価4.90 回答率100% 科目GPA3.70
S232042 専門ゼミナールⅣ	達成目標 経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	再履修者3名は、卒業研究と並行しての受講であり、卒業研究の課題を安易に転用して提出する傾向があり、必ずしも、課題内容に沿った課題をこなして切れていなかった。 半分以上の学生が、課題に真摯に取り組まない傾向が見られ、丁寧にレポートを作成する方法を伝えても、達成目標に近づけるゼミナール授業にはならなかった。 最終的には、ほとんど欠席の2名、課題を提出しない2名の評価不可が4名、試験未提出1名を含み、不可が5名（再試で4名合格）という状況であった。	欠席少なく、それなりに授業課題を提出すれば、過程評価7割〜8割は難しくない設定であり、いかに授業課題に取り組ませるかが大きな課題である。 翌年度前期には、卒業研究に取り組ませることになるため、レポートレベルの授業課題をこなせるよう辛抱強く指導していく。	授業評価4.16 回答率41.7% 科目GPA0.80
S232044 専門ゼミナールⅣ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	今年度は、卒業論文を作成するために必要となる統計学の用語・定理等を理解することを目標にした授業を行った。具体的には、偶数回の授業では、統計学の用語を指定し、受講生にその用語について調べさせた。奇数回の授業では、前回の授業で調べた内容を発表させた。奇数回の授業の発表の際に理解が不十分と思われる点を指摘したが、あまり改善に結び付かなかったように感じる。	次年度は、受講生に調べさせる用語・定理等を提示する際に、その用語・定理の説明に含めるべき点も示す予定である。	授業評価4.26 回答率90.0% 科目GPA3.30
S232045 専門ゼミナールⅣ（新カリ）	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	ユーチューブの動画配信方法やPPTの自己紹介動画作成を行った。まじめに取り組んだ学生は、早く就職内定をもらい両親からお礼の連絡をもらった。	まじめに取り組む学生が多く、今年度のやり方を次年度も実施していく予定である。	授業評価4.8 回答率44.4% 科目GPA4
S232046 専門ゼミナールⅣ	①経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ②ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	本ゼミナールでは、ビジネスにおいて不可欠である異文化コミュニケーション力とは何かについて調査・研究を行い、グループで口頭発表することをメインの学習内容としている。履修者10人のゼミ生の内訳は、ネパール人留学生2人、中国人留学生7人、日本人学生1人である。それぞれの国や文化的背景が異なる学生たちが、個人で選択したテーマに向かって研究発表に取り組むことを学習の柱とした。 その結果、学生たちそれぞれの国のビジネス上の文化的特徴を見つけ出し、それが他の国の文化的比較をすることで、どんなことに注意をするとコミュニケーション力が身につけられるかについて発表できたように思われる。	ゼミ生は毎週の授業に皆出席して、演習課題（授業内課題）や宿題（授業外課題）を提出し、プレゼンテーションも比較的満足できるレベルであった。授業アンケートに関しては、回答率が50.0%とやや低いものの、満点5.0と高評価をしてくれたので、今後も引き続き高い評価を得られるよう努めたい。また、科目GPAが3.00を越えたことが良かった。	授業評価4.450 回答率50.0% 科目GPA3.25
S232047 専門ゼミナールⅣ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	民法、商法、会社法を中心とした企業法の論点を題材にして、資料を活用することで、具体的な論点を掘り下げることができた。こうした学習を通じて、レジュメ作成、プレゼンテーション資料作成の基礎を学ぶことができた。各分野の様々な論点に触れることで、一定程度の問題の本質に触れることができたようである。また、就職のためのビジネス実務マナーについても、検定試験問題集を通じて学ぶことができた。	就職のためのビジネス実務マナー検定対策について興味をもって取り組んでいたようなので、希望者に2級合格に向けてより対策を強化していきたい。公務員対策では、政治の分野の基礎問題をより提示していきたい。	授業評価4.867 回答率100% 科目GPA3.83
S232048 専門ゼミナールⅣ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	前期に比べればややマンネリ感が出てきているものの、割とゼミ自体への取り組み意欲は高いと考えられる。この雰囲気を持していきたい。	授業評価4.760 (5.0、4.6、4.6、4.8、4.8) 回答率55.6% 科目GPA3.11 回答率が半分程度なのは気になる所。今後は如何にマンネリズムを打破していくかが問われてくると考えている。	授業評価4.760 回答率55.6% 科目GPA3.11

S232049 専門ゼミナールⅣ	経営的思考力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	実際の企業の財務諸表をもとに財務分析を進めようとしたが、ゼミメンバーの会計知識の差が大きく、進められなかったため、上場企業の決算書を読むのに必要な会計知識を補うよう、輪読を行った。学生のプレゼンテーションに関する補足資料を用意し、時間をかけて解説をし、理解を深められるよう努めた。	企業戦略に関する著書をもとに輪読を行った。認知度の高い企業事例の中から、各自が関心をもつ企業を選択し、発表を行ったことで、企業戦略について理解することができたように思われる。また、学生とのコミュニケーションおよび学生同士のコミュニケーションが取れたことで、学習理解が進んだように感じた。次年度においても、意見をいえる雰囲気づくりに努めたい。	授業評価5.0 回答率85.7% 科目GPA2.14
S232050 国際社会論	国際社会を取り巻く主要な問題について理解し、それぞれの問題について自分なりの意見を持ち、他者に伝えることができることを目標としている。国際社会を巡るさまざまな問題について自分なりの考えを養い、それを他者に伝えられるようにすることを教育効果としている。	学生は中国出身、ベトナム出身が約半ずつ。非常におとなしい学生たちであった。お互いに話し合うことより、講義に耳を傾けることに重点を置いた。パワーポイントは一切使わず、配布資料も提供しなかった。長年にわたって積み上げた知識と体験が引き出しとして存在しているため、初めて担当した授業ではあったが、授業展開に困難を感じることはほとんどなかった。	初めて担当した授業のわりには、まずまずの授業評価ではあると思う。しかし、後で考えると至らぬ点が数々あることを自覚している。少しでも改善するべく、努力していきたい。	授業評価4.5 回答率40% 科目GPA2.71
S232051 専門ゼミナールⅣ	達成目標 経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	ゼミナール形式で、前半は教員が用意した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルについて学習した。後半は、学生が各自で検索した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルに加え、PCを用いたレポート作成やプレゼンテーションを行った。レポート作成や卒論作成に繋がる基本的なスキルの学習であるが、繰り返し行うことで、個人差はあるが少しずつ向上していたと感じている。また、PCスキルについても同様で、普段からPCを利用する機会の有無により、理解度や習熟度に差はあるが、少しずつ慣れていくことができたと感じている。今後は、基本的な内容だけでなく、応用的な内容も取り入れ、PCスキルや読解力をより向上させることを実践していきたいと考えている。	対面でのゼミナールと言うことで、解説と課題作成、次年度の卒業論文の執筆につなげていくことができるように工夫した。個別に指導する機会を多くし、卒論に関する内容説明を時間をかけて解説することを心がけた。今後も個別指導の機会をできるだけ多くとるように心がけ、卒業論文の執筆につなげていきたいと考えている。	授業評価4.60 回答率50.0% 科目GPA2.67
S232052 専門ゼミナールⅣ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	10人のゼミ生ほぼ全員100%の出席率で、3年生から卒業論文のテーマを決めるための準備という位置づけだった。それぞれが関心のある事例について情報収集し、まとめ、発表を行った。それぞれの関心事について調べ、まとめ、パワーポイントを使用して発表させるという方式で進めた。発表内容について、質問し話し合い、レクチャーしていった。学生自身の良く知っている分野を扱うように取り組んだので、積極的に取り組んでいたと思う。	昨年度の授業評価、回答率授業評価4.644(4.8、4.2、4.3、4.3、5.0、4.9) 回答率90%と比較すると、ややさがった。9人のゼミ生で、8人がアンケートに回答した。概ねいい評価だった。一人だけ欠席がちな学生がいて、なかなか全員揃ってのゼミ指導ができなかった。その学生には保護者ともコミュニケーションを取りながら、個別指導をし、大学生活を続ける意欲をだしてもらえよう学生に寄り添うことに努めた。学生個々の事情もあるが、これからも丁寧な指導を続けていきたい。	授業評価4.7 回答率88.9% 科目GPA3.00
S232053 現代マネジメント講義Ⅱ	現役経営者の講義から、将来自分が経営者・管理者に就任した時に必要な経営実践のヒントを学び取ることができるようになる。講義の内容を理解し、講義内容の要点を授業時間内課題に的確にまとめられることができるようになる。実社会で活躍される現役経営者のお話から、経営という仕事にはどのようなことが求められるのかを学び取り、自らのビジネスパーソンとしての教養及び経営実践能力の向上に反映させることを目的とする。	前期よりもB評価の割合が増えてしまった。履修者によってはマンネリを感じる者も出てきているかもしれない。課題の提出率が思ったより低いことが課題である。	授業評価4.643 (4.7、4.6、4.6、4.6、4.7) 回答率61.3% 科目GPA1.96 昨年度より数値的には向上している。真剣に受講している履修者の割合が増えてきているのであれば良い傾向と考えられるが、課題の提出率が如何に上げていくかが課題として残る。	授業評価4.64 回答率61.3% 科目GPA1.96
S232054 戦略思考Ⅱ	与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。	日本スポーツ協会の指導者資格獲得のための基礎知識を戦略的な思考の観点から捉え、授業を実施した。受講生はコーチングや、トレーニング、ジュニア育成に関しては実際の現場での事例を示すことで、活発な議論もできた。しかし、地域スポーツ振興やスポーツプロモーションなどの分野に関しては、内容に実感を伴う工夫を凝らしていく必要があると感じている。	前期の戦略思考Ⅰの授業評価は4.43であったが、後期のⅡは4.20に下がった要因について考えてみるに、後半において内容が抽象的になってしまった部分が挙げられる。次年度は学生が興味・関心を示すような事例を多く示し、より関心をもって臨めるようにしていきたい。	授業評価4.70 回答率69.6% 科目GPA2.47
S232056 戦略思考Ⅱ	各自の関心事から研究テーマを段階的に絞っていき、それぞれの進捗状況にあわせてより細やかな指導を心掛けたい。前で発表できない学生の対応に追われ、今後は、授業以外の時間に個別対応する。	ユーチューブの動画配信や自己紹介動画の作成、編集を行った。興味のある内容は真剣に取り組んでくれることが分かった。	科目GPA3.82であった。ユーチューブの動画配信限定で実施したので取り込みやすかった。	授業評価4.75 回答率72.2% 科目GPA3.82

S232057 戦略思考Ⅱ	①与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。 ②他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。 ③現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。	履修者は12人で、毎週、対面式授業を行った。毎回、学生は単元の授業内容を理解しながら、各単元にある役に立つ英語表現やCDについて発音練習をした。ただ、ペア練習やグループ練習は、コロナ禍の状況では行うことができなかった。授業最後に配布した演習課題（授業内課題）や宿題（授業外課題）を、期限の次週までに提出してくれた。また、毎週の対面授業には、ほとんどの学生が出席して、受講した3年生は真剣に取り組んでいた。	履修者の66.7%が授業アンケートに回答してくれた。評価は非常に高く、科目GPAが3.00を超えたので、充実した授業を展開することができた。また、日本人学生と留学生とのコミュニケーション活動が行うことができると学習効果が高められるので、今後も、1時間半の授業で実施できるとよいと思われる。	授業評価4.60 回答率66.7% 科目GPA3.08
S232058 戦略思考Ⅱ	与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。 他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。 現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。	テキストをもとに、企業の決算書から、その企業の戦略やビジネスモデルを探る授業を行った。受講者が、会計に関心をもっており、また少人数であったこともあり、お互いにコミュニケーションを取りながら授業を進めることができた。	企業の戦略を探るにあたり、認知度の高い企業を対象とすることで、学生の関心と理解を得ることができたように思われる。また、学生とのコミュニケーションおよび学生同士のコミュニケーションが取れたことで、学習理解が進んだように感じた。次年度においても、意見をいえる雰囲気づくりに努めたい。	授業評価4.60 回答率83.3% 科目GPA2.75
S232059 企業データ分析と活用 商教選	経営比率分析の手法と意味・意義を理解し、企業の財務状況の判断ができる。 企業経営の診断の基礎を学習し、マネジメントに必要な基礎的スキルを身に付けることができる。	起業評価の分析手法を説明した。古語学生は最後に自分の興味を持った企業の財務諸表を調べ、どのような状態なのかを知ることができたと考えている。	科目GPA2.7であったが、F以外は3.10であった。 昨年よりは改善が見られたが、学生の自己評価による学修到達レベルと成績評価による学修到達レベルに乖離が見られる。授業課題の未提出者を減らす必要がある。	授業評価4.36 回答率60.5% 科目GPA2.7
S232061 ヒット商品企画論	世の中のヒット商品を基に、その成功要因を論理的に理解できる。 商品が生み出されるプロセスを理解することを通じて、企業で実際に商品企画やその過程のマネジメントを行うことができる。 現代企業のビジネスモデルについて、その全体像を把握することができる。	事例と理論を組み合わせ、問いかけをしながら、双方向的な講義を行うよう心がけた。また、事例として取り上げた商品の写真や企業のHPなどの紹介を通して、学生の関心を得られるよう心がけた。 現代企業によるヒット商品が生み出されるプロセスについて、概ね理解されたように思われる。	学生がよく利用するであろう企業（店）、商品、およびサービスを事例として取り上げることで、学生の関心が高められたように思われる。また、問いかけを多く行い、考える時間を設けることで、学生の理解が深まったように思われる。今後も、事例と理論を組み合わせ、問いかけをしながら、双方向的な講義を行うよう心がけた。	授業評価4.67 回答率79.4% 科目GPA3.16
S232063 国際関係法	主に条約について理解し、専門用語を把握することができる。 遭遇するであろう様々な法的局面で適切に対応することができる。 ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。	本講義は、条約を中心とした国際法の分野として、これまでの法学習に国際法的視点を組み込んで思考する重要な科目に位置付けられる。国際慣習法を含めて、国と国または国際社会の合意について、ときには時事問題に触れながら、国際法や国際連合のような国際組織について理解を深めていくことができた。とりわけ、国際連合の役割について、具体的な問題の基礎を取り扱うことができた。	本年度も国際情勢により国際連合の話題が多かったため、ニュース記事など多くの話題が提供できた。国際関係をめぐって、学生がより身近に感じられるよう、最新の論説や判例をより取り入れていきたい。	授業評価4.59 回答率52.9% 科目GPA2.49
S232065 スポーツチーム経営論 【開放】	スポーツチーム経営の基礎理論を身に付けることができる。 領域に応じたスポーツチーム経営の実践スキルを身につけることができる。	スポーツチーム経営論という授業では、達成目標からは、チーム（メンバー）のマネジメントなのか、アマチュアチームのチーム経営なのか、プロチームの収支まで含めたビジネスマネジメントなのか、明確でないため、授業内容の構成に苦労した。 学生自体の興味も、前者、後者、それぞれに分かれているようで、興味を継続させるという点に苦労した。 履修生の3分の1が4回以上の欠席数で、授業内容が飛んでしまうため、十分な理解をするのが難しくなっていると感じる。	チーム（メンバー）のマネジメントでは、具体的な事例やスライドの工夫を、プロチームのビジネスマネジメントでは、経営学の視点から整理することで、よりわかりやすい内容に再編していく。	授業評価4.59 回答率64.6% 科目GPA1.57
S232066 スポーツ社会学	達成目標 社会におけるスポーツの役割や価値・意義について理解できる。 私たちが生きる社会とスポーツとの関わりを学ぶ。スポーツの肯定的な部分だけでなく、否定的な部分についても言及し、社会におけるスポーツの役割や価値・意義について社会学的な視点で考察していく。	3年次開講科目であることから、スポーツと社会との関わり、社会におけるスポーツの在り方、それらに関する歴史や制度等について取り扱う内容とした。これまでの経営に関する科目の内容、およびスポーツに関連する科目の内容を随所に織り交ぜた内容を構成した。 内容としては、社会学であるため、多少難解な部分もあるが、受講生にわかりやすく理解できるような構成や資料の作成を心がけた。履修者自身が置かれている状況やこれまでの経験などと照らし合わせることで、現在までのスポーツと社会との関わりについて理解が深まったのではないかと考えている。	授業方法として、全ての回を対面授業とし、希望者には遠隔対応にて実施した。授業資料や課題の内容等について、難解な内容が含まれることから、図や表といった視覚的にわかりやすいものを取り入れることを意識した。達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の難易度は必要だと考える。今回は履修者が59名であり、対話を実施する回数はいくらほど取ることではできなかった。今後は履修者数が増えた際の授業内容や方法について再考し、より理解が深まるようにしていきたいと考えている。	授業評価4.64 回答率68.1% 科目GPA2.39
S232068 卒業研究Ⅱ	学習から得られた問題意識に基づいて、その内容を卒業論文にまとめる。グラフ、図、フローチャートを用いて、自分の主張をより効果的に示すことができる。	これまでの学習の集大成として、各学生が興味をもつテーマを設定し、適切な参考文献による先行研究のリサーチと、リサーチクエスチョンに対する時分なりのアプローチの結果を卒業論文にまとめる指導を行った。卒業論文の出来栄には、ややばらつきがあるものの、いずれも合格点には到達することができた。	締め切り間際に、切迫した状況で卒業論文を仕上げる学生が散見されたため、今後は全員が計画的に進められるよう、スケジュール管理を厳格化していきたい。	授業評価4.76 回答率71.4% 科目GPA2.51

S232069 卒業研究Ⅱ	企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	卒業論文の作成は毎年切羽詰まり論文を書く学生が多い。中間発表は11月だが、夏休み前にもう一回発表する機会が必要である。	就職活動と卒業論文に忙しい日々を4年生は送っている。就活の合間に論文を作成している。これっておかしいのでは。論文執筆活動の合間に就職活動をするのがほん頼の姿である。 授業の改善よりマインドコントロールである。	授業評価4.40 回答率38.5% 科目GPA3.33
S232070 卒業研究Ⅱ	経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを卒業論文という形式で調査・研究し説明していくことによって、経営能力を身につけることができる。	卒業論文の作成を個別指導し、文献調査やインタビュー調査の手法の基本を指導した。その結果、個人差はあるものの課題発見力や論理的思考力が身についた。また論文執筆や報告会でのプレゼンテーションを通じ、文章表現力や口頭表現力を養うように心掛けた。その成果としてゼミ生全員が一定レベルの卒論を完成することができたと思う。	卒業論文執筆の指導において、各自のテーマに応じて個別に参考文献の紹介を積極的に行いたい。また各人の能力に応じ、よりきめ細かく個別対応を図り、特に留学生のサポートに力を入れたい。	授業評価4.86 回答率63.6% 科目GPA3.55
S232071 卒業研究Ⅱ	達成目標 体育・スポーツと社会との関わりに関連したテーマを設定し、資料収集、文献の読解、発表、ディスカッション、卒業論文の作成を通して、体育・スポーツに関する幅広い見識を体系的に身につける。	十分に卒業研究を進められる学生が2名、なんとか課題をこなせる学生が1名、十分に課題をこなせない学生が4名、卒業できないためほとんど欠席の学生1名という状況であった。 結果的に、本試験までに十分なレベルに達した学生が3名、その後も粘り強く指導を続け、3名がなんとか卒業研究のレベルに達した。	ゼミ内の学生レベルが高くないため、自分の現状を把握しにくい傾向が見られる。 卒業研究として、一定レベルを求めるのであれば、インゼミ等、他のゼミの学生の進捗状況などを、お互いに把握できる機会を設けたい。	授業評価4.67 回答率54.5% 科目GPA1.13
S232073 卒業研究Ⅱ	論理的な思考ができるようになる。数学的に問題を解決することができる。	2023年度は、第2回授業から卒業論文の作成を開始したが、12月末までに卒業論文を完成できた受講生は少数であった。	次年度は、卒業論文のゼミ内の締め切りを11月中旬に設定し、12月末までに全員が卒業論文を完成させられるようにしたい。	授業評価4.56 回答率100% 科目GPA4.00
S232074 卒業研究	□ 経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し説明していくことによって、経営能力を身につけることができる。	論文のテーマ設定、情報収集、論文構成の作成、発表の仕方等について指導した。個人差はあるが、各自が設定したテーマについて、収集した資料から考察を行い、その結果を他者に伝える力が身についたように思われる。	各自の関心事から研究テーマを段階的に絞っていき、それぞれの進捗状況にあわせてより細やかな指導を心掛けたい。前で発表できない学生の対応に追われ、今後は、授業以外の時間に個別対応する。	授業評価4.95 回答率80.0% 科目GPA4
S232075 卒業研究Ⅱ	①企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。 ②ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	毎回テキストに基づいて、論文作成のステップ・バイ・ステップ方式で授業を展開した。受講生は毎週書き足した論文を受講生全員の前で読みながら、修正すべき箇所を述べた。それを持ち帰って、次週、修正した論文を添付ファイルで送信して、再度受講生の前で読み上げ、修正箇所が本当に修正されているのかを確認するという一連の作業を繰り返した。 ただ、中間発表会はゼミ内で行い、また、コロナ禍の影響で審査審査発表会もゼミ内で行った。中間発表会に際しては、事前に何度もリハーサルを行い、パワーポイントのスライドの修正を行い、時間内に発表できるようになるまで、繰り返し練習をさせた。また、卒論審査発表会では、全員が十二分に準備し、予定時間内で発表することができた。	ゼミ生は毎週の授業に皆出席して、演習課題や宿題を提出し、プレゼンテーションもある程度満足できるレベルであった。授業アンケートに関しても、回答率が5割を切っているもの、満点に回率高評価をしてくれたので、今後も引き続いて学生から高い評価を得られるよう努めていきたい。また、科目GPAが3.60と非常に高かったことが良かった。今後も効果的なゼミ指導を続けていきたい。	授業評価4.88 回答率41.7% 科目GPA3.60
S232076 卒業研究Ⅱ	企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。 マネジメントに必要な基礎的スキルを身につけるとともに、将来のキャリアに必要な資格あるいは公務員試験対策を通じて、専門的スキルを培う。	昨年度からのゼミナールの学習の集大成として、前期からの各学生が選択した労働法のテーマについて、それぞれのベースで研究を進めていった。主要な参考文献と最新判例の選定をもとに、効果的な論文構成を目指して指導した。最終的に、卒業論文として全員が合格点には到達することができたが、完成予定日より時間がかかった学生もいた。内容としては卒業論文にふさわしい、評価に値する論文に到達したと考える。	卒業論文審査会に向けて、卒業論文の内容を効果的にプレゼンテーションできるように、指導方法をより工夫したい。	授業評価4.754 回答率100% 科目GPA4.00
S232077 卒業研究Ⅱ	経営学関連の学習の成果として、経営絡みの分野の範囲内で各自卒論テーマを制定し、そのテーマを説明すべく卒業論文を作成することを目的とします。そして社会に真摯に仕える能力を身につけてもらいます。 経営学関連の問題に関連したテーマを自ら制定し、そのテーマを卒業論文という形式で調査・研究し説明していくことによって、経営能力を身につけることができる。	今年度から経営学全般に手を広げたゼミという位置づけになったことで、指導の仕方や目線のある程度変更する必要もあったが、基本的には昨年度以前の方式の延長線上で望めた。全員卒論が期限内に提出出来たことは素直にうれしく思っている。	授業評価4.600 (4.4、4.7、4.6、4.7、4.6) 回答率70.0% 科目GPA3.70 今年度のゼミ生はS評価7名とかなり優秀で意欲も高かった。それだけにもう少し彼らの能力を引き上げられれば良かったという思いもある。	授業評価4.60 回答率70.0% 科目GPA3.70
S232078 卒業研究Ⅱ	経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し説明していくことによって、経営能力を身につけることができる。	論文のテーマ設定、情報収集、論文構成の作成、発表の仕方等について指導した。個人差はあるが、各自が設定したテーマについて、収集した資料から考察を行い、その結果を他者に伝える力が身についたように思われる。	各自の関心事から研究テーマを段階的に絞っていき、それぞれの進捗状況にあわせてより細やかな指導を心掛けたい。	授業評価2.97 回答率66.7% 科目GPA2.71

<p>S232080 卒業研究Ⅱ</p>	<p>達成目標 体育・スポーツと社会との関わりに関連したテーマを設定し、資料収集、文献の読解、発表、ディスカッション、卒業論文の作成を通して、体育・スポーツに関する幅広い見識を体系的に身につける。 体育・スポーツを経営学、経済学、社会学、健康科学、医学といった様々な視点から捉え、社会における体育・スポーツの意義を考え、問題点を分析し、解決策を探索していく。</p>	<p>ゼミナール形式で、前期の専門ゼミナールⅣから引き続き、前半は卒業論文の各自のテーマに沿った資料収集と卒業論文の執筆を行った。そして、収集した資料および卒業論文についてまとめ、発表することを繰り返し行った。後半は、執筆している卒業論文の完成に向けて、添削と修正を繰り返し行った。 資料収集に苦労する者もいたが、文献検索の方法の指導や参考資料を提供することで、資料収集のスキルはある程度身についたと思われる。しかし、収集した資料を読解し、精査することについては、もう少し時間をかけて取り組めるようにした方が良かったと感じている。また、これまでも繰り返し行ってきたプレゼンテーション資料の作成や、発表については、当初に比べ向上したと感じている。 今後は、資料の読解と、卒業論文の執筆方法について、早い時期から取り組むことができるよう、前期から構成を検討していきたいと考えている。</p>	<p>対面でのゼミナールと言うことで、解説と課題作成、卒業論文の執筆を効率良く進めることができるように工夫した。個別に指導する機会を多くし、卒論に関する内容説明を時間をかけて解説することを心がけた。今後も個別指導の機会をできるだけ多くとるように心がけ、卒業論文の執筆につなげていきたいと考えている。</p>	<p>授業評価4.93 回答率30.0% 科目GPA2.00</p>
<p>S232081 卒業研究Ⅱ</p>	<p>いままでゼミで習得してきたことをもとに、各自研究や課題となるテーマを見出し、研究テーマを選定し、そのテーマに向かって資料収集や調査を行いながら、文章をまとめる力を身につける。また、そのまとめについて、他の人に伝える力を身につける。</p>	<p>授業の前半は就職活動でゼミ生が全員揃うことがなかなか難しい状況だったため、個人指導が多かった。ゼミ生それぞれの卒論研究の進捗状況、就職活動に合わせて授業を進めた。学生の就職活動の時間を調整して授業以外の個別指導の時間を設けるようにした。各ゼミ生の進捗に合わせて指導を心掛けた。</p>	<p>昨年の授業評価4.914(4.9 4.9 5.0 4.9 5.0) 回答率100%より 回答率も、評価も少し下がった。 就職活動でゼミ生が全員揃うことがなかなか難しい状況だったため、卒論の作成には、個人差が大きく、各学生の状態に応じて対応した。一人卒業直前まで修得も、卒論の内容が決まらない学生には個人指導が多かったため、SNSを使用し個々に対応することを心掛けた。</p>	<p>授業評価4.80 回収率80.0% 科目GPA2.67</p>
<p>L232003 プレゼンテーション ツール B1</p>	<p>①ICTの光と影を認識し、主体的に判断して行動することができる。 ②課題発見、問題解決にICTを活用することができる。 ③社外文書や表計算のデータベース化を修得し、プレゼンテーション能力を向上させることができる。 コンピュータアプリケーションソフトの活用を通して、自分で問題解決できる能力を身につけることを目的とします。</p>	<p>教科書の例題を中心に解説し学生に対して授業内課題を求め、授業外課題も求め毎回課題提出がある科目である。 プレゼンテーションの発表はクラス全員に行わせ審査の一部も学生に担ってもらった。発表する形も学修したが学生はそれなりに楽しんでいるように見られた。 授業のビデオをユーチューブにアップし、unipaにリンクを張っているが利用する学生は小数であった。</p>	<p>GPAが今一つである。そんなに難しいことを実施していないのに学生の学修意欲が低下している。 今後教材を工夫し興味深いものにする必要があるかもしれない。</p>	<p>授業評価4.58 回答率45.2% 科目GPA1.68</p>
<p>L232010 統計学 B</p>	<p>①標本調査等の統計的な手法について理解できる。 ②現代の社会で用いられている統計的な手法について説明できる。 ③統計的な手法を用いて身の回りの課題を解決することができる。</p>	<p>学習過程評価は3回の宿題(満点の合計が50点)、学習成果評価は50点満点の筆記試験である。2023年度は、有効数字の取り扱い方法について繰り返し説明するようになってから3年目である。このため、多くの受講生が有効数字を正しく扱えるようになってきた。履修登録した86名中、15名が不合格(D, E, F評価)であった。</p>	<p>統計学は、建築学科用、スマートデザイン学科用、総合経営学科用の3つのクラスを開講している。総合経営学科用クラスの不合格率は2021年度18%、2022年度19%、今年度17%と10%代後半の数値である。次年度は不合格率が10%代前半になるよう丁寧な授業を行いたい。</p>	<p>授業評価4.50 回答率60.8% 科目GPA1.79</p>
<p>L232012 英語コミュニケーション B B2</p>	<p>①アメリカ留学の日常生活のいろいろな場面において、コミュニケーション・ストラテジーを駆使しながら、英語で積極的かつ円滑にコミュニケーションをとる態度と技能を身につける。 ②さまざまな状況において英語で積極的に話しかけ、応答できるような姿勢を身につける。</p>	<p>履修者が24人で、対面授業を行った。毎週、ユニットの教材や資料をP Pの画面に映し出したり、CDプレーヤーを活用したりして、授業を進めた。また、授業終了前に、ユニットの演習課題(授業内課題)を配布し、次週、その課題を提出するように求めた。その後、学生が提出した課題(授業内課題)を点検し、個々の学生に評価フィードバックを記入し、授業開始前、全学生の机の上に返却した。時々、学生からの「授業Q&A」を通じて、学習相談を受けた。学生は単語の発音練習や会話とエッセイの音読練習を行うことで、ある程度高度で生きた英語の授業を展開することができた。</p>	<p>24人の履修者のうち15人が授業アンケートに回答してくれた。対面授業をなんとか進めることができたが、英語の発音練習やペア練習などをやる時間をあまりとることができなかった。今後も、学習意欲の高い留学生と最初から英語学習に消極的な日本人学生との混合クラスでは、互いに英語コミュニケーション力を伸ばすことを目指したい。</p>	<p>授業評価4.293 回答率62.5% 科目GPA1.35</p>
<p>L232021 スポーツB B</p>	<p>達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。 教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索します。</p>	<p>受講者は28名で授業を展開した。実技を行う上で適正な種目として、バドミントンと卓球を選択した。 授業前に、予習課題として、授業で行う技術や戦術について、各自で調べること、授業に臨む準備ができ、ある程度の知識を持ちながら、調べただけでは理解不足な点を、授業の中で学ばせることができたのではと考える。学んだことをゲームで発揮してみることで、新たな課題や、課題解決を模索させられたと考える。 技術や戦術を身につけるには、ある程度の反復練習と、実践であるゲームの中で試行錯誤することが重要で、時間的な配分も学生の状況に合わせて実施した。</p>	<p>実際の成績に比例はしているが、成績評価以上に、授業評価が高かった。授業評価回答率が65.6%で、多少、授業評価が高い(達成目標の達成度が高い)学生に回答が偏った可能性も否定できない。スポーツが不得意な学生もいるため、技術練習において、より適切なアドバイスを与えながら、自身で成長を実感させられるよう工夫していきたい。</p>	<p>授業評価4.61 回答率64.3% 科目GPA2.46</p>

L232022 スポーツB アーチェリー	アーチェリーの基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。「ルール」・「マナー」・「安全管理」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。	アーチェリーの知識をレポート作成をすることで明らかにし、実技を通して射法、ルール、安全対策を身に付けることができた。レポート作成と実射時間の比率を、実射に重きを置いたところ、全員が、最終的に12mの距離からの狙って矢を放ち、得点帯の中に入れることができた。集中授業ということで、体力がない学生は苦しい状況になるが、時間的な間隔を取り、解説しながら進めたことは効果が上がった。	今年度は11号館の室内アーチェリー場を使用し、より安全な状態で行うことができたことはよかった。授業評価は4.88と高評価だったが、受講生7名中「E」の学生が2名、他はA3名、B2名となった。レポート中心の評価をしたことで、提出状況も芳しくなかったことから全体の科目GPAも低くなったように思う。実技科目ということで、次年度は、実技に重きを置いた評価に変更するとともに、レポートを期限内にしっかりと提出させる工夫と体制をとっていきたい。	授業評価4.4 回答率66.7% 科目GPA3.67
L232041 中国語B	中国語の発音構造や特徴を理解し、よく使われる基本的な表現ができる。中国語の文法の基本知識を応用できるようになることを目的とします。中国語のそのものを勉強するだけでなく、中国語という言葉の側面にある文化や考え方についてもさらに深く理解することができる。	ほとんど中国語Aの単位を取得した受講生で、より日常の身近なテーマや場面で、学生が自分の意志を中国語で表現することや、中国語を話す楽しさを実感してもらった。テキストを1週で1課ずつというゆっくりとしたペースで進めた。また附録の「決まり文句」を確実に身につけさせた。授業時間外で複数回の演習問題を行わせ、授業の内容について振り返りをしてもらった。教科書の付属の「別冊問題集」を使用したことで、授業中に練習でできなかった分をカバーすることができた。	昨年授業評価4.5944 (4.6 4.5 4.6 4.7 4.6) 回答率69.2%評価比較すると、アンケートの回答率は少し下がったが、評価は上がった。経営学部学生のクラスで、中国語Aを未取得の学生が多い状況で授業を難しく感じている学生もいるので、具体例の解説を増やすなどの対応を行い今後、改善或いは考慮して授業を実施していくと考えているが、今後中国語Aを取得することを必須条件とすべきか考え中である。	授業評価4.634 回答率67.2% 科目GPA2.41
Q232003 教職論	職について関心をもち、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容・研修等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。現在の学校現場が抱える多様な問題の状況を把握すると同時に学校の教職員構造の転換(チーム学校の実現)の方策についても理解する。教育課程の意義、教育課程の歴史の変遷、果たす役割をとらえ、学校における教育課程の編成の重要性をとらえるとともに、新しい学力観に基づいた教育課程の方向に関心をもち対応できる能力の育成を図る。	教職の意義や教員の役割について概説し、教職への意欲や適性等について多角的に考察する機会を設けたが、グループワークや発表の時間を十分にとることができず、自ら教員として、当事者として実践的な教育上の課題について取り組む姿勢や態度を育成できなかったことが課題である。	教員の職務内容や教育上の課題等について、具体的実践的に理解できるように演習やグループ討議などを行い、当事者としての意識を持てるように授業計画を工夫する。	授業評価4.6 回答率89.5% 科目GPA3.5
Q232004 教育方法論	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して」とされていた総合的な学習は「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して」とより明確化された。この授業では総合的な学習の時間の目標、評価について意義、計画、指導、評価に関する基本を身につけることを目標とする。	授業計画で、前半は講義形式で、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付け、後半は演習形式で学習指導案の作成、ミニ模擬授業の実施で学生は主体的に学習を進めることができた。時間不足もあり、総合的な学習の時間の学習指導案の作成などについては不十分であった。	今後、現場で必要が高まるICT機器を実際の授業にどのように取り入れていくか、学習計画での導入のプラン、実際の模擬授業での使用法などを身に付ける場面を多く取り入れていきたい。総合的な学習については、なかなか学習の場を学生には想起できないので、学校現場の授業記録動画などを視聴させることによってイメージさせたい。	授業評価4.9 回答率50.0% 科目GPA3.2
Q232005 公民科教育法 I	公民科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された公民科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法(学習指導案の作成)を身に付け、それをもとに実際の授業ができる能力をもに付ける。	公民科の授業をする上で、本学の学生が不足している教科の知識を補うことができず、指導案の作成、および模擬授業では授業の構造化がうまくできずメリハリのない授業が多いのが反省点である。授業方法ではICT機器を効果的に使用したり、発問ができた点は評価できる。	公民科の基礎的な知識を確認する課題を与えて教科に関する知識を補うことなどを考えていきたい。学生が行う授業で学習目標を明確にするために、その授業に対応する評価問題の作成を通じて明確にしていきたい。	授業評価4.9 回答率66.7% 科目GPA2.0
Q232009 教職実践演習(高)	①教員としての使命感や愛情をもって、生徒の指導に携わることができる ②適切な生徒理解のもとに、教育環境に配慮し、学級経営の見通しを持つことができる ③教科の基礎から発展・活用までを意識して指導することができる ④教科の基礎から発展・活用までを意識して指導することができる ・教職課程の履修全体を通じて身につけるべき、教員としての資質・能力の最終的な形成と確認を行う	今年度はみあい特別支援学校の学校訪問を計画した。最新の情報を学習するとともに教員生活や普段の児童生徒の様子も細かく伺うことができた。担当の教頭先生に感謝したい。学生たちにも現場の先生方が生きがいとやりがいを持って仕事に従事している様子や「子どもが好き」という部分が十分に伝わったと感じた。最後のPPTを使った発表もそれぞれの個性が出て良かったと思う。今後も磨きをかけながら進めていきたいと思う。	毎年、県内の特別支援学校に学校訪問をさせていただいている。高校とは違う雰囲気の中でも先生方が生き生きと活動して見える姿や子どもたちの純真な姿を実際に見ることができ意義は大きいと考えられる。次年度は岡崎特別支援学校が美合に移転してくる。可能であれば、新しい校舎や先生方の姿を見学できるように取り計らっていきたい。	授業評価4.5 回答率44.4% 科目GPA2.0
Q232009 教職実践演習	教職課程の他の科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて身につけた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、大学が自らの養成する教員像や到達目標等に照らして最終的に確認することを目的とする。	教育実習を全員が無事終了し、教師としての自信と自覚が多くの学生が持つことができ、授業における様々な事例研究の議論や発表において教師としての見方、考え方で進めることができるようになった。しかも内容は実践的で中身の濃いものであった。	大学の校内の授業では、この科目の意図である現場ですぐに活動できるスキル・知識を育成することに限界もあり、今後は校外の授業の研究発表会への参加や高等学校訪問など機会を現状より多く設定したい。	授業評価4.5 回答率44.4% 科目GPA3.2

Q233001 教育実習	授業の目標としては、実習校で、教科指導、生徒指導を中心に実践的な能力の育成を図る。教育効果としては、学校現場において、教科の知識、指導技能、面談技能など実際の教育現場で対応できるようになることを目指します。	この科目、すべて教育実習校で行われる授業であることから、大学の担当教員としての自己評価はないが、教育実習中の巡回指導において学生との面談や指導教諭との連携はできた。	教育実習に対する事前・事後指導において、現在の教育現場に即した実践的な指導の場面を取り入れた工夫を図っていきたい。	授業評価4.6 回答率44.4% 科目GPA3.2
Q233002 事前・事後指導	教育実習生は学ぶ生徒である立場と教える先生の立場とを兼ね備えるという視点から、この二つの立場の本質を理解することを重点にします。外部の学校での実習に臨むために、本校の学生としてふさわしい態度、言葉づかい、あいさつ等一般社会での常識を習得し、人間性を磨くことを含めて行います。教師としてふるまい、学習指導案の作成と生徒の前で授業が出来る指導と実践ができる。教育実習をスムーズにできるようにすること。	少人数で教育実習を直前に控え、学生も欠席もなく前向きに取り組み、学習指導案の作成、模擬授業なども高いレベルで実施でき、学生もある程度の自信をもって教育実習の取り組みができた。また、実習中の流れと心得を実務、実践レベルでまとめたパワーポイントの教材の配信は学生に好評であった。	最近の学校現場を踏まえた授業形態、特にICT機器（実物投影機、タブレット、パワーポイントなど）の効果的な利用法を、講義だけでなく実際に使用させる授業も取り入れていく。	授業評価4.3 回答率33.3% 科目GPA3.0
U232001 世界の美術 A, 過年度生	① 日本と世界の代表的な美術の様式について知っている。 ② 日本と海外の美術と社会のかかわりについて説明できる。 ③ 美術作品を鑑賞し、評価することができる。	今年度5年目の開講となる共通科目である。授業内容は、世界の美術に関して、絵画や彫刻作品についての識を得ることに加えて、人間の歴史や世界のなかで宗教や政治と密着して重要な機能を果たしてきた美術が各時代や地域に固有な社会的・文化的状況の中で、どのような意味と価値をもっていたのかを考え、美術を通して人間のあり方を学ぶことにある。授業方法は、パワーポイントで作成した高精細な画像と解説をまとめた資料をUNIPAで配信し、個々人がしっかりと主体的に作品を鑑賞し、解説を行い、授業の最後に簡単な課題提出により、集中力を高めるように配慮した。毎回の課題に取り組むことで理解度を深めるようにした。質問等をフィードバックすることで双方向型の学びとなるように配慮した。	履修者数73名のうち49名が回答した。アンケート項目のうち、2番のみ4を下回っているが、シラバスの達成目標に対する達成度を測る内容であることから、達成度の向上に留意したい。授業資料の充実と毎回の課題によって、一定の評価につながるよう配慮したい。できる限り質疑応答や発表の時間を設け、自ら主体的に学び、考える工夫をさらにしていきたい。	授業評4.033 回答率67.1% 科目GPA2.50
U232002 世界の美術 D,B	① 日本と世界の代表的な美術の様式について知っている。 ② 日本と海外の美術と社会のかかわりについて説明できる。 ③ 美術作品を鑑賞し、評価することができる。	今年度5年目の開講となる共通科目である。授業内容は、世界の美術に関して、絵画や彫刻作品についての識を得ることに加えて、人間の歴史や世界のなかで宗教や政治と密着して重要な機能を果たしてきた美術が各時代や地域に固有な社会的・文化的状況の中で、どのような意味と価値をもっていたのかを考え、美術を通して人間のあり方を学ぶことにある。授業方法は、パワーポイントで作成した高精細な画像と解説をまとめた資料をUNIPAで配信し、個々人がしっかりと主体的に作品を鑑賞し、解説を行い、授業の最後に簡単な課題提出により、集中力を高めるように配慮した。毎回の課題に取り組むことで理解度を深めるようにした。質問等をフィードバックすることで双方向型の学びとなるように配慮した。	履修登録者96名のうち53名が回答した。一昨年度の評価4.331、昨年度の4.271を大きく上回る結果となった。次年度は、履修者数にもよるが、できる限り質疑応答や発表の時間を設け、自ら主体的に学び、考える工夫をさらにしていきたい。	授業評4.521 回答率55.2% 科目GPA2.27
U232003 アート表現演習	アート制作を体験することで視覚的、体感的な学びの機会としてもらうことが目的。	思考より体験を優先することで、アートを身近に感じ世界を広げてもらおうと考えているのだが学生の興味が響いてない感覚がある。課題の改善が必要だと考えるが、それが解決につながると思えないところが問題。	課題は悪くはないが学生の興味を刺激できるような展開を新たに探したいと考えている。	授業評価4.38 回答率49.4% 科目GPA2.55
U232003 アート表現演習	①モチーフを画材を用いて描写することができる。 ②配色や平面や立体の構成によって感情を表現することができる。 ③計画性をもって作品の制作を遂行することができる。	デザイン教育の基本として、指示されたモチーフ（対象物）を各自が、鉛筆や絵具で画用紙に描写する実習を通し、色や形、材料や技法について段階的に学習できるように複数の課題を設定し、各課題の導入ではデモンストレーションや作例紹介を行い、制作途中では各自の能力に応じた助言を通して、観察力と表現力の向上を促した。	履修登録者数164名のうち、81名が回答した。回答率が半数以下であるが、一定の評価を得られたと考える。課題制作過程における、教員による適切な指導を行い、提出課題に対する効果的なフィードバックにより、教育効果を高められるよう、次年度以降も工夫を重ねたい。	授業評4.303 回答率49.4% 科目GPA2.55
U232004 三河のものづくり	①三河地方のものづくり産業に関する歴史を理解している。 ②三河の地域活性化に対する、ものづくり産業の現状を理解している。 ③岡崎市および岡崎商工会議所との連携を視野に入れた活動に取り組むことができる。	今年度で5年目の開講となる共通科目である。三河地方の「ものづくり」に関する講義に加えて、「ものづくり」の一線で活躍している方々としてお招きしたゲストスピーカーが、ものづくり産業の具体的戦略の立案・実施に関するレクチャー、および受講生の地域活性化のための提案作成についてのアドバイスをを行った。さらに、受講生が主体的に調べ、考えたことを、発表資料としてまとめ、毎回、課題を作成することで理解を深めることができた。	履修者72名のうち46名が回答した。昨年度は回答率が半数に届かなかったが、今年度は回答率が増加したものの、評価はほぼ同じであったことから、一定の評価を得ることができたと考えられる。理解の定着を図るための課題の内容を改善し、ゲスト・スピーカーについても最善の人選を行っていきたい。	授業評4.348 回答率63.9% 科目GPA2.19

<p>U232005 三河のまちづくりと観光</p>	<p>観光とは社会的、文化的現象のひとつであり、現代観光の仕組みや役割・影響・特長、観光を支える事業活動である観光事業を含め、観光に関する基礎的な知識を幅広く習得し、その全体像をつかむことを目的とします。観光産業の構成と特徴を理解することができる、観光政策と観光行政を理解し、観光と地域社会との関係性を理解することができる。三河地域のまちづくりと都市再生のアイデアを提案できる。</p>	<p>教員2名（高木先生と）による授業で、3学科共通科目であり、それぞれが学習する専門分野の素材としてまちづくりに関心を持たせ、各学科における専門分野を踏まえたうえで、それぞれの学科の特徴を開ける授業である。建築だけではなく、経営も、デザインも勉強できる科目として、ゲストスピーカーの先生方（地域で活躍する方から直接話を聞ける）こと大変関心を示していた。また三河地域の一つの観光地地又は公共施設、商店街、一つの店などの現状について調べ、調べた内容に基づいて提案をし、発表できたことにより、今後社会人となってから必要となるプレゼンテーションについても取り組むことが出来てよかった。</p>	<p>昨年の評価は評価4.372（4.4、4.2、4.3、4.5、4.4） 回答率58.0%と比較すると、アンケートの回答率は下がったが、評価はほぼ同じでした。概ね良好な評価を得たので、これまでと同様の方式で続けていきたい。授業アンケートの結果などを参考にして、3学科の学生が満足できる授業を目指したい。また3学科の学生それぞれが関心を持つ事について考慮しながら、学科を超えた学生同士の交流ができるような授業を工夫していきたい。</p>	<p>授業評価4.375 回答率32.7% 科目GPA1.84</p>
<p>U232006 三河のものづくり</p>	<p>①三河地方のものづくり産業に関する歴史を理解している。 ②三河の地域活性化に対する、ものづくり産業の現況を理解している。 ③岡崎市および岡崎商工会議所との連携を視野に入れた活動に取り組むことができる。</p>	<p>今年度本科目担当に復帰し、一部のゲストスピーカー招聘担当も担った。今年度は総合経営学科の留学生を中心とした過年度生の履修が目立っていて、制度の盲点を突かれた様な思いであった。</p>	<p>授業評価 4.348 回答率 63.9% 科目GPA 2.19 履修者が多かったためプレゼンの実施がかなわなかった。また過年度生の履修が増えたことは、共通科目としての本科目類の制度設計の問題点をあぶり出した感否めない。</p>	<p>授業評価4.348 回答率63.9% 科目GPA2.19</p>
<p>U232007 マーケティングと広告</p>	<p>①マーケティングと広告の関係を理解することができる。 ②広告の媒体と表現について、現在の動向を理解することができる。 ③商品やサービス、企業を想定して、広告制作のプランニングをすることができる。</p>	<p>事例と理論を組み合わせ、マーケティングと広告が日常生活に身近で、かつ3学科の専門領域と密接に関係している学問であることをわかりやすく説明するよう心掛けた。広告賞を獲るなど評価の高い広告の事例を紹介し、関心を高めると同時に、理解を促すよう工夫をした。</p>	<p>現在の潮流に合わせ、デジタルマーケティングやインターネット広告の説明をより詳しく行う。また紹介する事例は鮮度を重視し、学生が関心を持てるようにタイムリーで最新のものに更新する。</p>	<p>授業評価4.40 回答率69.6% 科目GPA2.55</p>